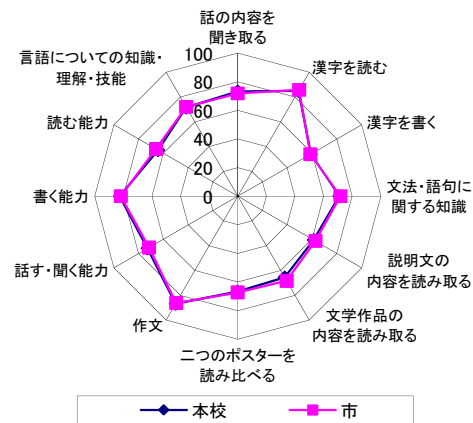


宇都宮市立陽東中学校 第1学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話の内容を聞き取る	73.3	71.9
	漢字を読む	85.0	85.7
	漢字を書く	58.9	58.7
	文法・語句に関する知識	71.1	71.7
	説明文の内容を読み取る	61.3	62.6
	文学作品の内容を読み取る	65.7	68.3
	二つのポスターを読み比べる	66.6	67.2
	作文	86.8	86.2
観点別	話す・聞く能力	72.9	71.7
	書く能力	82.5	81.8
	読む能力	64.3	65.9
	言語についての知識・理解・技能	71.7	72.1



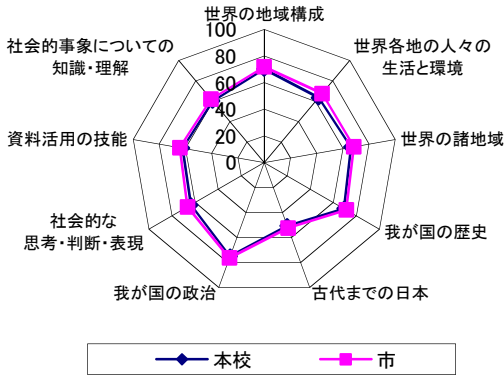
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話の内容を聞き取る	本市平均と比べて、1.4ポイント上回っている。メモを取りながら、必要な情報を聞き取ることがおおむね出来ている。しかし、(3)のスピーチの組み立て方を問う問題と、(4)の記述を伴う問題では、市の平均よりも約2ポイント低い数値になっている。スピーチの構成を聞き取る力と、情報を元に自分の考えをまとめて記述する力が足りないことが分かる。	授業の中で随時、聞き取りテストを実施している。今後は、テスト以外の場面でも、相手の話の中心は何なのか、何を伝えようとして話しているのかを意識して話の内容を聞き取るよう指導していきたい。また、スピーチの場面では、目的や意図に応じて、自分の考えを的確に話すことができるよう、話し方の工夫も助言していきたい。
漢字	本市平均と比べて、読みは0.7ポイント下回り、書きは0.2ポイント上回っている。読みでは「存続させる」「綿(わた)」の正答率が低く、書きでは「設ける」の正答率が41%だった。日常生活に関連が低い単語は、定着率が低いことが分かる。	授業の中で随時、漢字練習や漢字テストを行うなど、漢字の基礎知識定着のために指導の工夫をしている。漢字が得意な生徒については漢字練習プリントで自主的に学習を進め、定着させることができている。「漢字の成り立ち」の単元で、会意文字や形声文字について学習した。今後は、成り立ちに関連付けて覚える方法を指導するなど、苦手・嫌いな生徒の意識を高められるような工夫をしていきたい。
文法・語句に関する知識	本市平均と比べて、0.6ポイント下回っている。文を、単語に区切る問題の正答率が特に低く、文法を苦手としていることが分かる。また、漢字の部首を問う問題も、正答率が60%と低かった。	授業の中で随時、文法のミニテストを行っているが、その結果からも理解が不十分であることが分かる。今回の調査での文法の領域は「文節」と「単語」についての出題だった。基本事項であるが、理解が浅い。もう一度基本を丁寧に押さえて、苦手意識を持たせないようにしたい。そして、ワークやプリントなどの問題を繰り返し解くことで、学力を定着させていきたい。
説明文の内容を読み取る	本市平均と比べて、1.3ポイント下回っている。接続詞を問う問題は、本市の平均を2.4ポイント上回っている。しかし、文章の展開に即して内容をとらえたり、それらを整理してまとめる問題は、苦手なようである。	授業の中では、今後も、段落構成や段落の要旨のまとめなど、基本的な学習を続け、定着させたい。説明的文章の展開は、文章の構成を理解することが必要である。接続詞の働きについては理解があるので、それを手掛かりに、文章の構成を読み解く方法を指導していきたい。また、内容を整理してまとめる作業が苦手なので、普段の授業から、自分の考えを書いてまとめる作業を多く取り入れていきたい。
文学作品の内容を読み取る	本市平均と比べて、2.6ポイント下回っている。「登場人物の心情をとらえる」問題や、「登場人物どうしの心情の差異をとらえる」問題が苦手である。文章中の語句の意味をしっかりと理解していないなど、語彙力が弱いことも原因のひとつと考えられる。	文章の読解において、語句の知識・語彙力はとても重要である。特に文学作品においては、心情をとらえたり、場面の展開を読み取ったりすることが必要不可欠で、そのためには文中の言葉がどんな意味なのかをよく知ることが大切である。まずは辞書でちゃんと語句を調べ、徐々に覚えていくよう指導したい。その上で演習をし、文中の様々な描写の意味を理解し、そこから、登場人物の心情を捉えられるよう、指導していきたい。
二つのポスターを読み比べる	本市平均と比べて、0.6ポイント下回っている。ポスターを作る際の工夫をとらえる問題の正答率が58%と低い。また、ポスターの本文から必要なことをまとめて書く問題は、無回答の生徒が9%おり、苦手意識が高いことが分かる。	図表の情報と、話し合いの文章を読み取る問題だった。資料を比較しながら、文章を目的に沿ってまとめて書くことが要求される。授業の中で、資料を読み取ったり文章をまとめたりする機会は多い。しかし、それらを比較し自分のことばでまとめる作業は少ない。今後は、少ない字数で求められた条件に従って、文章書く演習を取り入れたい。
作文	本市平均と比べて、0.6%上回っている。指定された文字数で、まとまった文章を書くことが出来ている。しかし、段落構成を考え、自分の立場とその根拠を明確にして文章を書くことは、少々苦手なようである。	授業の中では随時、作品についての感想や意見を書かせるなどの「書くこと」に関する指導を行っている。また、「根拠を明確にして書こう」の単元を終え、根拠とは何かについて、また、根拠を明確にして文章を書くことを学習した。しかし、まだまだ演習が足りない。今後も引き続き、決められた条件に従って意見文を書く取り組みを、続けていきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第1学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の地域構成	70.3	71.9
	世界各地の人々の生活と環境	63.6	67.7
	世界の諸地域	66.1	68.4
	我が国の歴史	69.2	71.2
	古代までの日本	50.6	52.3
	我が国の政治	75.0	76.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	63.7	66.5
	資料活用 of 技能	62.3	64.3
	社会的な事象についての知識・理解	60.2	62.1



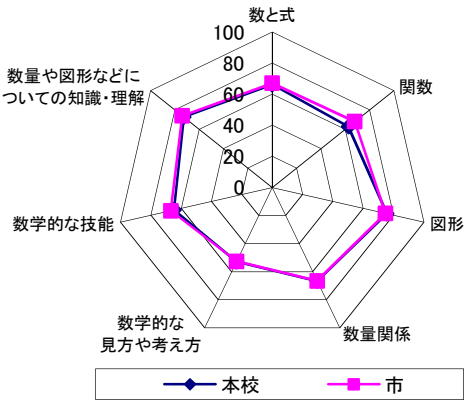
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の地域構成	市全体の平均と比べ1.6ポイント下回っている。特に図中の一地点の緯度と経度を読み取る問題において3.6ポイント下回っている。海洋の分布や大陸の分布について理解をもとに、図を読み取る問題はほぼ市の平均と差はなかった。主な国の名称と位置の理解をもとに図を読みとる問題においては、0.3ポイント上回った。	社会科の学習内容は、小学校の既習事項を基礎にしてさらに発展的な内容を学習することになるので、多面的・多角的な切り口から学習内容をすすめていくような授業を展開していくことが重要である。本年度の状況では、資料活用について、図やグラフ、写真資料等を読み取って、それを活用する問題においてポイントが下回っている。授業において時間を十分取りながら資料活用の経験を増やすようにして、苦手意識が出ないような工夫をしていきたい。
	世界各地の人々の生活と環境	市全体の平均と比べ4.1ポイント下回っている。特に標高の高い地域に暮らす人々の生活について、理解をもとに表の内容を帰納的に考える問題において8.2ポイント下回っている。世界各地の人々の伝統的な住居の理解をもとに写真を読み取る問題で5.0ポイント下まわっている。世界各地の人々の生活をもとにファーストフードチェーンが行っている工夫について考える問題においては、0.9ポイント上回った。	
	世界の諸地域	市全体の平均に比べ2.3ポイント下回っている。季節風がもたらす気候の変化についての理解を問う問題で3.6ポイント下回った。中国における都市人口増加に関するグラフやアジア州の貿易の特色に関するグラフの読み取りに関する問題が1.4ポイント～3.4ポイント下回った。南アジアの国々の独立の背景について、資料を読み取って答える問題で、0.5ポイント下回った。	
歴史	我が国の歴史	市全体の平均に比べ2.0ポイント下回っている。特に甲骨文字についての理解を問う問題で11.9ポイント下回った。古墳時代の渡来人によってつくる技術が伝えられた須恵器についての理解を問う問題で、9.1ポイント下回った。	小学校での既習内容をもとに、古代までの日本についての出題である。この領域については1学年のはじめの頃に学習する内容なので、特に生徒たちの興味・関心を高めることができた内容である。年表を使った歴史の流れをつかむことや歴史的な事象について政治史の理解はよかった。しかし、文化面や中国や朝鮮との外交に関するところについての理解が不十分なところがみられ、歴史全体を多角的・多面的にとらえる力をつけていくことが求められる。作業的な学習を増やしていくなど、主体的に課題を解決できる場を増やしていきたい。
	古代までの日本	市全体の平均に比べて1.7ポイント下回っている。特に奈良や平安時代の文学作品の問題で、3.7ポイント下回った。一方、飛鳥時代、奈良時代の主な出来事についてを問う問題では7.6ポイント上回った。遣隋使についての理解について問う問題では、6.8ポイント上回った。	
公民	我が国の政治	市全体の平均に比べて1.7ポイント下回っている。特に国民の権利や義務についての問題で、3.7ポイント下回った。一方、平和主義についてを問う問題では4.3ポイント上回った。	小学校での既習内容からの出題で政治についての基本的な用語を問う問題であった。日本国憲法の三大原則や権利や義務に関することについては、繰り返して授業の中で触れながら中学校3年での公民の学習につながるようにしていきたい。生徒が現在のテレビのニュースや新聞などのメディアを通じて、興味を持って学んでいけるような資料や学習形態を工夫できるようにしたい。

宇都宮市立陽東中学校 第1学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	66.1	67.1
	関数	62.7	67.9
	図形	75.5	74.7
	数量関係	66.6	66.5
観点別	数学的な見方や考え方	52.8	52.6
	数学的な技能	64.7	66.8
	数量や図形などについての知識・理解	72.7	73.9



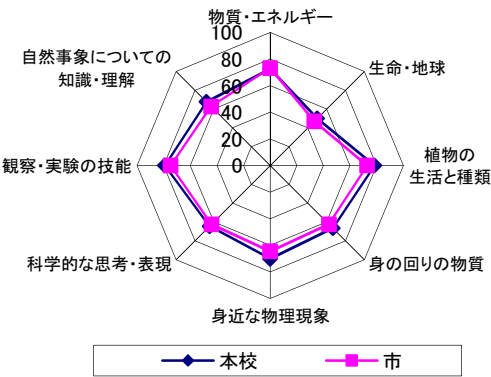
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	陽東中学校1学年の平均点は、宇都宮市の平均より、1.0ポイント低い。正の数・負の数は、得意とする生徒が多いが、文字式の計算に苦手意識を持つ生徒が多い。その分、方程式の計算にも影響がある生徒が多いのが現状である。	数多く問題に触れることが肝心と考える。授業の最初に豆テストを全クラスで行うなど、工夫して行く。特に、文字式の計算で加法・減法の計算方法と乗法・除法の計算方法が区別して理解できない生徒がみられるので、この部分を重点的に指導して行きたい。
関数	陽東中学校1学年の平均点は、宇都宮市の平均より、5.2ポイント低い。文字に対する苦手意識があり、変数x、yにさまざまな数が入り、しかもともなって変わることと違和感をもっている生徒が多い。	文字式の苦手意識をなくすよう、様々な問題に触れるよう工夫して行きたい。また、式からグラフ、グラフから式を求める基本的な問題を理解させるよう、繰り返し問題に触れさせながら指導して行きたい。
図形	陽東中学校1学年の平均点は、宇都宮市の平均より、0.8ポイント高い。図形に対する苦手意識が少ない生徒が多い。平面図形の基本的な記号を理解し、使用できる生徒が多い。	基本的な記号を理解してきている現状があるので、応用問題を解かせる機会をもっと増やし、図形の領域の学力がさらに向上するように指導して行きたい。
数量関係	陽東中学校1学年の平均は、宇都宮市の平均より0.1ポイント高い。単位をそろえる力は身につけている生徒は多いが、割合の問題や速さと時間と道のりの関係の問題に苦手意識がある生徒が多いのが現状である。	割合に関しては、基本的な問題にたくさん触れさせることで慣れることから学力向上を目指して指導を始めたい。また、速さと時間と道のりの関係の問題でも、まずは基本的な問題を数多く触れることで、しっかりとした学力を身に付けさせたいと考えている。

宇都宮市立陽東中学校 第1学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	72.7	73.3
	生命・地球	49.9	47.0
	植物の生活と種類	78.3	72.9
	身の回りの物質	66.6	62.4
	身近な物理現象	70.1	64.5
観点別	科学的な思考・表現	64.5	62.5
	観察・実験の技能	79.1	74.8
	自然事象についての知識・理解	67.7	62.8



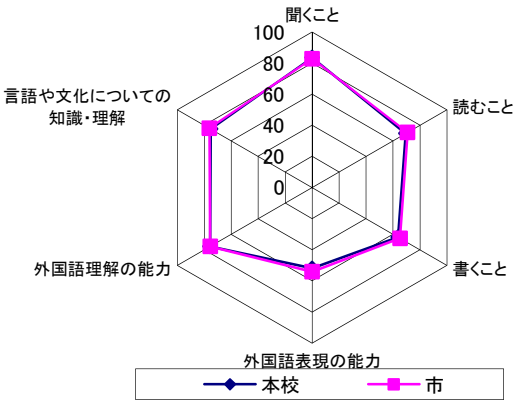
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	陽東中学校1学年の平均は、宇都宮市の平均より、0.6ポイント下回った。問題の内容別に見ると、「てこのはたらき」が0.1ポイント、「電気の利用」が1.2ポイント宇都宮市の平均を下回った。いずれの内容も一般的な傾向として苦手意識を持つ生徒が多いが、本校の1年生もそのような傾向があると見られる。	小6で学んだ範囲からの出題であった。中学1年生では「光・音・力の性質」について学ぶことになっているが、実験等で興味をもたせ、苦手意識をもたせないようにしていく。具体物等でイメージしやすいよう工夫し、丁寧な指導を心がけていく。
生命・地球	陽東中学校1学年の平均は、宇都宮市の平均より、2.9ポイント上回った。今回の問題の内容は、「大地のつくりと変化」であったが、約50%という低い正答率であった。	小6で学んだ範囲からの出題であった。中学1年生は火山や地震、地層等を学ぶが、この範囲はイメージがもちやすいため、興味をもって取り組める生徒が多い。典型的な問題を解きながら、応用力もつけていきたい。
植物の生活と種類	陽東中学校1学年の平均は、宇都宮市の平均より、5.4ポイント上回った。問題の内容別に見ると、「身近な生物の観察」が6.9ポイント、「植物の体のつくりとはたらき」が3.6ポイント、「植物の分類」が6.8ポイントと、すべて宇都宮市の平均を上回った。	中学校に入学して初めての単元であったため、時間をかけ、丁寧な指導をしてきた成果が表れた。実際には小学校でほぼ同レベルの内容をすでに学んできているので、次年度はもう少しテンポよく進んでもよいと思われる。より応用的な問題にもチャレンジさせたい。
身の回りの物質	陽東中学校1学年の平均点は、宇都宮市の平均点より、4.2ポイント上回った。問題の内容別に見ると、「身のまわりの物質とその性質」が6.2ポイント、「気体の発生と性質」が5.0ポイント、「物質の状態変化」が2.0ポイントと、すべて宇都宮市の平均点を上回った。	化学の分野は実験が多く、生徒は意欲的に授業に取り組む傾向がある。しかし、「密度」の計算がとても苦手な生徒が多い。ここでつまずいてしまうとその後、計算が必要なものがでてくるとすべて諦めてしまうようになるため、十分に時間をかけ、スモールステップでゆっくり進み、自信をもたせたい。
身近な物理現象	陽東中学校1学年の平均は、宇都宮市の平均より、5.6ポイント上回った。今回の問題の内容は「光と音の性質」で、特に苦手な生徒が多い範囲であるが、比較的理解しやすい問題だったため約7割という高い正答率であった。	中学1年生が学ぶ理科の内容の中でも、「光の性質」は特に理解しにくい範囲である。実験等で興味をもたせ、問題演習をしながら基礎的・基本的内容を十分に理解させたい。特に、作図等が苦手な生徒が多いので、十分な時間をとって指導していく。

宇都宮市立陽東中学校 第1学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	83.5	82.8
	読むこと	69.4	70.8
	書くこと	63.7	65.2
観点別	外国語表現の能力	51.9	54.1
	外国語理解の能力	75.8	75.7
	言語や文化についての知識・理解	75.3	76.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	市の平均が82.8%なのに対し本校は83.5%で、0.7ポイント上回っていた。絵を見て答えたり、会話内容を聞いて答える問題や、まとまった英文を聞いて答える問題の項目においても市の平均を上回っていた。聞き取る力はおおむね身につけているようである。ただし、対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答える問題においては正答率が低かった。	教師やALTの話す英語を聞いたり、絵を見ながら行うリスニングの問題を解いたりすることには、ほとんどの生徒が抵抗なく取り組めており、語と語のつながりや音の変化に注意しながら、より英語らしい音で発音することに対しても、物怖じしない生徒が多い。今後はまとまった英文を聞き取る機会を多く設けながら、的確にメモをとったり、内容の把握や整理をしながら聞かせるような機会を増やしていきたい。
読むこと	市の平均を少し下回る結果であった。長文の読み取りや、さまざまな英文の読み取りなどにおいては市の平均とは大きく差のある項目がなかった。一方で同じ読む活動においても三単現の否定文の動詞の形を含む語形や語法の知識・理解の正答率が目立って低かった。	課題となっているのが、長文の中に語形や語法の知識・理解を含む文に対しての読み取りの力が弱かった。これは文をただ読み取るだけではなく、語法や語形を正しく理解する必要性を示唆している。そのため、今後は文法項目（言語材料）の基本的な文の構造の理解をさせるために反復して指導を繰り返したい。授業の冒頭での帯活動や単元での小テストなどを行い、生徒にわかりやすくフィードバックを与えていきたい。
書くこと	市の平均を少し下回る結果であった。語彙の知識・理解における問題、単語の並び替えによる英作文、では市の平均と同等であった。3文以上の英作文や場面に応じて書く英作文において市の平均を下回る項目がいくつかみられた。	場面に応じた英作文が書けるように、生徒たちには「話す」「聞く」だけの活動に留めず、「聞いたこと」を書いたり、「話したこと」を書いたりする機会を増やしていきたい。また、授業で一度書いて終わらせるだけではなく、繰り返し書かせて、生徒が書いたものを教師が見て指導をしていきたい。